

縄文時代の村 発見~つけた!!

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 2007年度の調査(西から)



写真2 2006年度の調査(西から)

はじめに 京都市西京区大原野では、2001年より道路新設工事に先立って、発掘調査が行なわれてきました。この地域は、長岡京の北西部の右京二条にあたりますが、長岡京が造られる以前の上里遺跡かみざとの存在も知られており、縄文時代から古墳時代の集落跡もあったこ

とがわかっています。

村の発見 2006・2007年度の調査で縄文時代の村が見つかりました(写真1・2)。調査地は西山山地のふもと、向日丘陵との間を流れる小畑川の西側にあたります。

この村は、今から約2800年前の縄文時代晩期のもので、晩期と

いうのは、縄文時代の終り頃、もう少しすれば弥生時代が始まる頃のことです。

見つかった遺構 村では竪穴住居(写真3)、土器棺墓(写真4・5)、土壙墓どこうぼ、土坑どこう、炉、溝などが見ついています。

竪穴住居の跡は、全部で8棟見つかりました。直径が4~5mの、やや扁平な円形に掘り凹められたもので、床面の中央に炉があるものもあります。これらの住居は、広場を囲むように丸く配されています。中央の広場を中心に、土器を棺として使った土器棺墓14基や、穴を掘って遺体を埋めた土壙墓4基などがありました。

また、住居群の東には、幅8~10mの湾曲した溝があり、最も深



調査地



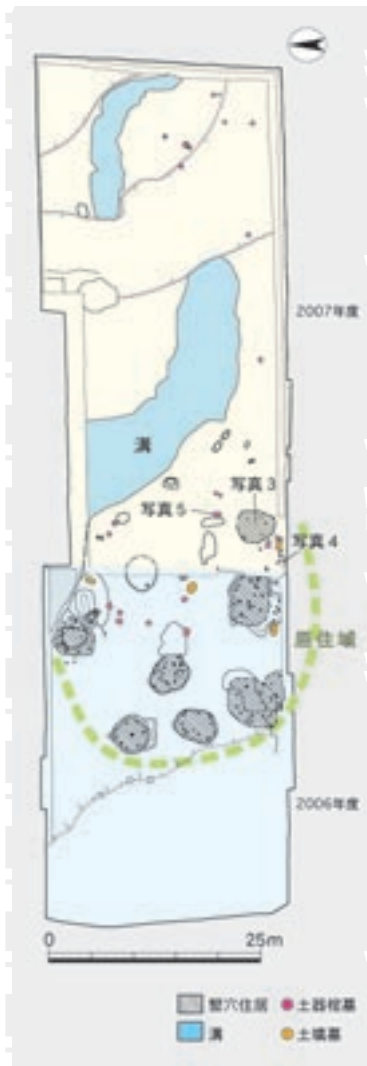
写真3 竪穴住居の跡



写真4 土器棺墓



写真5 土器棺墓



遺構平面図

いところは1mほどで、水が溜まっていたようです。この溝には、住居側から多量の土器や石器が炭化物とともに捨てられて堆積していました。

食物残滓 この中にゴミとして捨てられた食物残滓（食べ物の残りかす）が含まれていることが考えられました。そこで、溝に堆積している土を持ち帰り、水で洗って調べることにしました。泥や土・砂などを洗い流したところ、たくさんの炭や骨のかけらが出てきました。骨は細片が多く、ほとんどのものが焼けていました。まだ鑑定の途中ですが、ほ乳類・鳥類・魚類のものがあります。炭には木材の破片のほか、植物の種実が多く見つかっています。種子にはコメやマメなどの穀物、クリ・ドングリ・クルミなどの果実などがありました。

まとめ 近畿地方の縄文時代晩

期の遺跡は、奈良県・橿原遺跡、滋賀県・滋賀里遺跡、大阪府・馬場川遺跡などが知られています。しかし、これらの遺跡では、住居が見つかって1・2棟であったり、土器棺墓だけがたくさん見つかったり、この上里遺跡のように住居の配置がわかり、居住域に墓もあるような例はありませんでした。

また、ここで重要なのは、居住域に隣接した溝に土器や石器の破片とともに多量の食物残滓が捨てられていたことです。これらの食物残滓の炭化物を調べることで、当時の人々の食生活の一端を復原することができるかも知れません。今回の調査は、縄文時代晩期の集落がどのように営まれ、人々がどのように生活していたかを実際に考えることができる、近畿で最初の例といってよいでしょう。

(高橋 潔)